

令和2年第1回
高鍋町議会定例会

施政方針

高鍋町長 黒木敏之

先進国の成長率が減速する世界経済の中にあつて、覇権争いを続ける2大経済大国・米国中国の貿易摩擦、自国第一主義を貫く英国の欧州連合離脱、武力衝突が常に勃発しかねない中東情勢、新型コロナウイルス感染拡大による世界経済への影響、アメリカ大統領選挙の行方等、様々な要因が重なり、リーマンショック以降、回復を続けてきた世界経済は、今、正念場を迎えています。

国内においては、戦後最長の緩やかな回復基調が続いたアベノミクス景気も、米中貿易摩擦等の影響により、好循環の起点となる企業業績の上昇に陰りが見え始め、消費税増税の影響、新型コロナウイルス感染拡大による消費の低迷、企業業績への影響や東京五輪・パラリンピックで予想された訪日客特需への懸念、五輪設備投資特需後の反動等、国内経済成長の不透明感は強く、今後、その打開策として、さらなる金融緩和、財政出動、規制緩和による新たな成長戦略の立案は急務であり、同時に、時代の変化に対応し、果敢に挑戦する民間企業の成長努力も強く求められているところです。

激変する時代状況の中で、人口減少、少子化、超高齢化、生産年齢人口の減少等、地方都市を取り巻く課題は年々深刻さを増しています。今、私たちは、時代を読み取り、未来を想定し、効果的で実行力のある施策を模索し、情熱と勇気をもって、様々な課題の解決に立ち向かい、活力ある高鍋町の構築に取り組んでいかねばならないと考えます。

2020年、高鍋町は大きな節目の年を迎えています。2月1日現在、高鍋町の人口は20,196人。今年行われる国勢調査により、実際の居住者数は増える可能性はあるとしても、現在の人口動態事象からすると、住民基本台帳に基づく人口は2万人を下回ることになると思います。2014年に日本創成会議が発表した将来推計人口では、2040年、あと20年後、高鍋町の人口は15,000人規模になるという予想でした。しかも、およ

そ2人に1人は65歳以上の高齢者になるという予想です。今後、私たちは、これまでに経験したこともない急激な人口減少と超高齢社会を迎えることになります。

「いつの日か、また経済成長があり、人口は必ず増える」

その願いは、残念ながらもう過去の話、成長のない定常型社会を迎えた時代を生きる私たちにとって、それは単なる幻想にすぎないということを強く認識しておく必要があります。

しかし、私たちはここで怯む訳にはいきません。

今、大切なことは、「人口減少、超高齢社会」を悲観することではなく、「ピンチをチャンス」に、「問題点を可能性」に、「マイナスをプラス」に変えていくポジティブな力を発揮すること、すなわち、「人口減少をコンパクトなまちづくりに取り組むチャンス」と捉え、「空き家・空き地が増えることを緑や公園の多い美しい街並みを創るチャンス」とする等、時代に即応した「新たな視点」「新たなまちづくり」の創出であると考えます。

昨年12月に閣議決定された、「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」に則しながら、「新たな視点」で「新たなまちづくり」に取り組むにあたり、今、必要と思える9つのキーワードを挙げさせていただきます。

1、SDGs

人口減少、超高齢化、成長のない定常型社会、地球規模での様々な課題、SDGs 17項目の達成目標に向かって、「誰ひとり取り残さない」という理念の下、持続可能な自然環境、経済、都市開発、健康、人権、福祉社会を創っていくこと。

2、災害に強い町

地球温暖化により恒常化した集中豪雨、超大型台風のほか、地震、津波等の災害に対応できる、災害に強い、防災・減災都市を構築すること。

3、小さな町（コンパクトシティ）

人口減少が予測される中、人口の分散や都市の空洞化を抑制するため、都市的土地利用の郊外への拡大を規制し、中心市街地に都市機能を集中させ、郊外の集落との交通手段を確保し、生活に必要な都市機能と人口集積を接近させることで、生活者の利便性や街の賑わい・活力を生み出し、人口減少、超高齢社会に対応した都市を構築すること。

4、歩きたくなる町（ウォークブル・シティ）

花や緑の公園が多く、歩く人や自転車のために道路が確保され、歩きたくなるような美しい街並みやデザインのある町を構築することであり、空き家・空き地対策の方向性のひとつでもあります。

5、関係人口

関係人口とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のことを指します。関係人口の創出・拡大により地域外の人材が地域づくりの担い手となることが期待されています。

6、スマート・ウェルネスシティ

超高齢社会に対応した、人生100年の時代を「健康」で「幸せ」に生きるための課題を、科学技術や科学的根拠に基づき解決し、新たな都市モデル

の構築を目指すスマートシティ実装のひとつの方向であり、「健幸都市」「住んでいるだけで長生きできる町」を目指す取り組み。

7、Society 5.0（スマートシティ）

I o TやA IといったI C Tの力を高度に活用し、情報社会（S o c i e t y 4 . 0）をさらに進化させ、新しい価値やサービスを生み出し、課題を解決し、生活に豊かさと利便性をもたらす未来社会（S o c i e t y 5 . 0の実装としてのスマートシティ）を構築すること。

8、人と人がつながりを大切にしたコミュニティ社会

人と人が語り合い、助け合い、つながりを大切にする地域風土醸成のため、公民館活動、文化活動、スポーツ活動を積極的に後押しする取り組みであり、特に、高齢者が屋外に出て人とのふれあいを楽しむ仕組みづくりが重要です。

9、再生可能エネルギー自治体発電（自治体新電力）

再生可能エネルギーを利用した、自治体の発電及び売電事業への取り組みのことであり、自治体での電力確保は災害による停電時の電源になると共に、地域再生、自治体の財源確保、雇用の場の創出にもなります。

以上の9つであります。

今、まさに大変革期の真っただ中、私たちは常に変化への対応を求められています。しかし、単なる「目先の新しさ」や「変化」「改革」「革新」への取り組みにのみ囚われることなく、「不易流行」、変えてはいけない本質を見失うことなく、同時に、新たな変化を取り入れていく積極性をも兼ね備えた、

未来への深い洞察力と揺るぎない大局観を羅針盤とし、新たな高鍋町のまちづくりに取り組んでいかねばならないと考えます。

私は、高鍋町長就任以来、「豊かで美しい歴史と文教の城下町の再生」をビジョンとし、「農畜産業が豊かになってこそ、商工業は潤い、まちは元気になる」という基本理念の下、「産業振興」「福祉・子育て・教育」「住環境整備」の3つをまちづくりの柱に、「改革の努力を積み重ねていく風土の中で、優れた人材が育ち、若者がチャレンジできて、働きがいのある雇用の場があり、高齢者が健康で生き活きと過ごせて、子育て・教育に最適な福祉環境を備えた、誰もが住みたいと思う、豊かで美しい城下町」を目指して高鍋町の改革、新たなまちづくりに取り組んで参りました。

この3年間で振り返りますと、町民の皆様のお力添え、町議会議員の皆様のご支援、職員の努力もあり、既存の農業・地場産業・誘致企業の皆様への協力支援はもとより、昨年8月に1,100名の従業員によるフル稼働が始まった宮崎キャノン株式会社本社高鍋事業所様、店舗兼工場で道の駅機能を持つ株式会社デイリーマームマンマルシェTAKANABE様、積極的な商品開発に取り組む南薩食鳥株式会社様、IoTカンファレンスを開催したエイムネクスト株式会社様等の企業誘致、株式会社メモリード宮崎様による高鍋温泉めいりんの湯の民営化、町内企業の工場設立や拡張への後押し、中学生までの医療費の無償化、65歳以上のインフルエンザ予防接種自己負担を1,000円にするなどのほか、ふるさと納税の推進、施設のネーミングライツ、歴史シンポジウムの開催、外国語教育や小学校体育、特別支援教育の充実のほか学校施設環境の改善、キャリア教育支援センターの開設等多くの成果を生み出すことができたと共に、永年水害をもたらしていた宮越樋管への排水機場設置の推進、塩田川堤防のかさ上げ等、国・県による防災対策事業が大きく前進し、今後、さらに、高鍋駅・蚊口海浜公園

の活性化、町内企業の出資で設立されたまちづくり会社・株式会社マチツクルが取り組む町家再生事業、町立図書館の再生、鈴木馬左也別邸の利活用、さらなる企業誘致、老瀬地区の圃場基盤整備事業の推進等、取り組みが進みつつあります。

本年、これまで取り組んで参りました「10の達成すべき目標」の下、新たな課題を勘案し、選択と集中による短中長期的な計画を立案、実行し、皆さまと共に、大きな成果を創り出して行かねばならないと考えます。

「達成すべき目標」

1、農畜産業支援

農畜製品のブランド化

農畜製品の6次産業化

有機農業の促進

農畜製品の販売促進

J A児湯との連携促進

高鍋農業高校・農業大学校との連携促進

農業後継者・新規就農者の育成支援

家畜伝染病の防疫

2、福祉の充実

石井十次生誕の地として「福祉のまち」の推進

子育て世代の支援

福祉ボランティア活動支援

放課後児童クラブ・子どもの貧困対策等児童支援

高齢者や障がい者（児）が生き生きと暮らせるための支援

3、企業誘致・雇用創出

積極的な企業誘致活動の推進

レンタルオフィス・シェアオフィス事業の推進

誘致企業との意見交換会の開催

企業の求める人材の育成・確保

起業家の育成支援

4、商工業支援

ふるさと納税制度の推進

商工業者・地場産業者との意見交換会の開催

まちづくり会社との連携推進

町家・古民家再生の推進

「まちなか」活性化の推進

空き店舗対策の推進

地場産品開発・販売促進支援

後継者育成支援

商工会議所との連携促進

5、観光促進

社交飲食業の支援

高鍋駅舎周辺及び蚊口海浜公園の整備促進

高鍋城址舞鶴公園の整備促進

持田古墳群と花守山の連携、世界・日本遺産登録推進

九州オルレ 宮崎・小丸川コースのPR、広報・宣伝活動の推進

観光イベントの支援

城下町の景観づくりの推進

伝統芸能（高鍋神楽等）の支援

6、文教の町の再生・教育支援

小・中・高 学校支援

町立図書館の改修・リノベーション計画の推進

公民館活動の支援

スポーツ・文化活動の支援

スポーツ施設の整備

キャリア教育・ふるさと教育の支援

指定文化財等の保護と活用

7、防災・環境整備・美しい高鍋づくり

防災対策の推進

宮越樋管への排水機場設置・塩田川堤防のかさ上げ推進

災害危険箇所・未整備インフラの整備促進

コンパクトで美しく機能性に優れたまちづくりの推進

8、人口増加・定住支援

空き家バンクの設置

地域おこし協力隊制度を活用した外部人材の確保

定住支援策の推進

高鍋町の魅力発信事業の推進

9、町民の声を町政に反映させる仕組みづくり

男女共同参画社会づくりの推進

高鍋町ホームページからの情報発信

町民の意見を聴く機会の充実

10、役場の活性化

綱紀粛正の徹底

職員研修、人材育成の推進

町長表彰制度の充実

親しまれる役場づくりの推進

各課の明確な年度目標の設定

役場全体の年度目標を全職員で共有化

町長は課長、課長補佐との個人面談を実施

笑顔、挨拶、掃除の推進

以上、短期、中期、長期での達成すべき目標を明確にし、やるべきことを迅速確実に推し進めながら「豊かで美しい歴史と文教の城下町・高鍋町の再生」に取り組んで参ります。

「着眼大局 着手小局」

中国の儒学者・荀子の教えに習い、大きな視野で問題を捉え、小さな事柄にも心を配り積み重ねていく。大胆さと繊細さを併せ持つまちづくりであらねばならないと考えます。

令和2年度が、高鍋町のまちづくりにとりまして、大きな一歩となります

よう、皆様方のご支援ご協力をお願い申し上げ、町政推進に挑む私の所信とさせていただきます。